

月刊

GPP



Vol.74

令和4年1月号

株式会社
グロースパートナーズ

2022年のはじめに

遅ればせながらですが、本年も宜しくお願い致します。

日本ではあまり報道されなかったが、正月明け早々にヨーロッパから「**原発はグリーンな投資先とする**」と、衝撃のニュースが飛び込んできた。ESG基準ではNGとされていた原発が、急に“グリーン”になってしまったのである。

ドイツの様に脱原発を宣言した国への牽制なのか、それともガス、石油の高騰により現実的な選択をするための政治的な動きなのか、はたまたそれを見越して金融界が先に仕掛けているのか
...

以前、太陽熱温水器（屋根の上に据え付けて太陽熱で水を温める方式）で世界では2番目に長い歴史があるチリウヒーターのオーナーと話をしていた際に、非常に興味深い話を聞いたことがある。「北欧が環境に敏感なのは、全てはロシアのせいだ。エネルギーをロシアからのガスや石油に依存しているヨーロッパ諸国は、常にロシアへの依存から脱却したいと思っている」とのこと。

今回トンガの海底火山爆発にて甚大なる被害が出ていると思われる。大きな問題はどれくらいの問題が出ているのか、発生から数日たってもいまだ不明な点だ。この爆発により、膨大なCO2が排出され、噂によると年間の全世界のCO2排出量（2018年:335億トン）に匹敵するか、それ以上が排出されたと言われている。

CO2が地球環境にどれほどダメージを与えているのか、実のところはまだ正確には分かっていない。「草木はCO2を吸って育つのがだから、CO2は排出されるべきだ」と吠える人さえいる始末だ。ただ、間違いなく言えることは、地球環境を守り次の世代にしっかりバトンタッチすることは、我々現代に生きる人々がやるべきことだ。その為に原発が必要不可欠であるならば、それを選択すれば良い。やみくもに“原発反対”ではなく、何が正しい選択なのかを我々は判断していかなければならない、と改めて思う2022年正月である。

本年も宜しくお願い致します。

藤井 成厚

セルドロン採用報告

採用報告-1

大手ゼネコン様でセルドロンを採用して頂きました。ホッパーに残った生コンをセルドロンで造立し場内で仮設利用して頂きました。
ゼネコン様から土工さんへセルドロン処理を提案し、残コン処理方法を変えてみたところ、土工さんからもはつり作業より楽と高評価をいただいたようです。
RRCS(一般社団法人生コン残コンソリューション技術)の状況も気にしていただき、セルドロンによる残コンの処理方法標準化も期待されております。



採用報告-2

この現場では、配管の距離が長く配管内に余った残コン処理にセルドロンを採用して頂きました。生コンの数量が多く、予定より打設時間が伸びてしまい土工さんに造粒化の作業をしてもらえなく、新人の女性スタッフさん一人でセルドロン処理していただきました。初めての造粒化で失敗することもあったようですが、次回はうまく土工さんに作業いただけるようにするとのことでした。

セルドロン情報

セルドロンの原料である紙の発生方法が大きく変わるとき、最初に簡易的な吸水試験を実施し基準の吸水率を確認します。

今回は、新材料になりうるものを試験しました。
今後もより良い商品にするべく検討していきます。



セルドロンに関する疑問質問は営業 土井まで



03-4405-2642